

オオサンショウウオの生息する広島県管理河川における 河川工事に関する検討会の第2回開催結果及び第3回開催について

1 要旨・目的

本県が管理する河川の工事における国の特別天然記念物であるオオサンショウウオ（絶滅危惧Ⅱ類※）の配慮方針について、多角的な観点から学識経験者の意見を伺うため開催した第2回の結果及び第3回の開催について報告する。

※絶滅危惧Ⅱ類…絶滅の危険が増大している種

2 現状・背景

国の特別天然記念物であるオオサンショウウオは、生息・生育・繁殖可能性が高いと判断される場合には種に応じた環境保全を行うこととされており、本県では現地で生息を確認した河川工事において専用のブロックの採用等により配慮してきたところである。

昨年度、オオサンショウウオが確認されている本県が管理する河川での工事において、オオサンショウウオの専門家より「生息に適さない河川工事が行われている」との指摘がなされている。

3 概要

(1) 第2回の開催結果

ア 日時

令和8年2月5日（木） 13：30～17：30

イ 場所

TKP ガーデンシティ広島駅前大橋ホール6 A

ウ 検討会構成員（第2回、第3回とも同じ）

（参考）検討会構成員名簿のとおり

エ 説明内容（委員会資料については後日県ホームページで公表）

内 説 容 明	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回検討会の意見への事務局の対応案 ・生息状況等を踏まえた配慮範囲の考え方 ○オオサンショウウオに配慮した工法、調査のあり方 ・個体数等に応じた区間設定及び配慮工法
議 事 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局が提示したオオサンショウウオの保全のための配慮範囲の設定（生息標高、区間設定、確認個体数に基づく重要度設定等）及び配慮工法（配慮ブロックの定義、設置の密度及び寄せ石等）について、本日の議論を踏まえて再考すべきとの意見があった。 ・交雑種が8割を占める八幡川については、在来種の保全を目的として配慮範囲の対象とすべきとの意見があったが、防除の状況等を見極めながら配慮を再検討することについて合意を得た。

(2) 第3回の概要

ア 日時

令和8年3月25日（水） 13：30～16：00

イ 場所

TKP ガーデンシティ広島駅前大橋ホール6 A

ウ 議事

- ・第2回検討会の意見への事務局の対応案
- ・配慮方針（案）

(3) 予算（補助事業・単県）

—

4 今後の対応

3月末の配慮方針策定を目指す。

(参考) 検討会構成員 (◎…会長)

氏 名	意見を求める分野	役 職
阿部 勝彦	文化財	広島県文化財保護審議会委員 広島市安佐動物公園 園長
内田 龍彦	河川工学	広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授
◎ 河合 幸一郎	生物環境	広島大学 名誉教授
金田一 智規	環境保全工学	広島大学大学院先進理工系科学研究科 教授
清水 則雄	オオサンショウウオ	広島大学オオサンショウウオ保全対策 プロジェクト研究センター長
内藤 順一	希少生物	レッドデータブックひろしま爬虫類・両生類調査部会 調査委員代表